

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101974		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム曳馬の家(ユニット①～③)		
所在地	静岡県浜松市中区曳馬3丁目12-5		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要】 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277101974&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277101974&SC)

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、施設発行の情報紙「和み」を作成し、家族や面会者にお配りしている。また、毎月、行事を行い、ボランティアを招いて催し物を行ったり、屋外に遠足、夕食を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

信用金庫やドラッグストア、コンビニなどに囲まれ、遠州鉄道の助信駅にほど近く利便性の高い立地にある。昨年の課題であった「家族の運営推進会議の参加」についても、意義や内容の説明などの案内が実を結び、参加してもらえるようになっている。家族からは「悩みを共有できたり、直接市の職員に質問できる」といった声も挙がりおおむね好評で、今後の開催の励みになっている。また、ハーモニカ、ピアノ、弦楽器など音楽分野のボランティアが定期訪問していて、利用者とボランティア双方から人気が高い場として確立し、ボランティアの受け入れ調整に苦慮するほどの盛況ぶりをみせている。今後は受け入れだけでなく外への参加として、地域行事への関わりも目標としている。このように開設から8年を経てなお、新たな取り組みや改善を行っている点が評価できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく生活ができるような対応を心掛け、それに沿った支援をしている。	事務所にも掲げ、職員の振る舞いからも浸透していることが見えるが、強いて読み上げなどを行ってはいない。定着率も高いため、振り返りの機会も逸して、管理者は現状には納得しつつも、マンネリへの危惧ももっている。	年1、2回は「自らのどのような言動が理念の実現に通じているのか」を職員間で話し合うことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元公民館で行われている行事などに参加し、また中学生の体験学習の受け入れを積極的に行っている。	ボランティアの訪問が日常的にあるが、トピックスとしては、2校の中学校から6日間で60名余の訪問があった。一人ひとりの学生から便りも届き、利用者のみならず職員の励みにもなっている。また、日頃の散歩には公民館やスーパーなど地域資源を大いに活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して家族や地域の人々に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の状況、施設での取り組みなどを報告し、話し合いを行い、貴重な意見を得ている。	運営推進会議には、自治会長、民生委員、家族、地域包括職員、市職員らの参加がある。災害について話し合った際には地元ならではの情報を得ることができるなど、毎回の会議が運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、その場で相談したり、ご意見を賜ったり、また、介護相談員の受け入れも行っている。	運営推進会議に毎回参加してもらっていて、事業所の運営に協力してもらっている。会議では、家族の質問にも速やかに回答してもらえるなど、建設的な運営の一翼を担ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が研修を受け、禁止の対象となる行為、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束排除マニュアル、身体拘束ゼロへの手引きをいつでも見られるように、目に付くところに配置している	毎月の会議で管理者から注意事項として必ず挙げ、意識を克己している。ほかにも内部研修が年2回あり、全職員が必ず年1回は受けるようにして、標準化をすすめている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を常に念頭に置いて介護に当たっている。講義を受けたり、職員会議では、伝達、確認を怠らないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	そのような制度の学習はしているが、現在は、必要とする対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、十分な理解を得てから入居契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度は来設していただけるようにし、近況を報告するとともにご意見を賜っている。地域運営推進会議や職員会議で取り上げることもある。	今年度からの取り組みとして家族会(兼運営推進会議)に参加してもらえるように、それぞれの家族あてに手紙を出した。その結果もあってか、昨年度まで参加がなかった家族会に今年度は3～5名の参加があった。また、家族からの意見があった場合はユニットリーダーを通じて職員に届くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、カンファレンスを行い意見交換ができるようにしている。また、毎月第2月曜日には、職員の定例会議を行い、全体の意見を取りまとめることも行っている。	行事担当を設けることにより、職員は責任感のある自発的な対応ができるようになってきている。職員間にフィードバックの気概の芽も育ちつつあり、各ユニット間でフォローし合おうとする声も挙がるなど、少しずつではあるが職員の視野に広がりがみられる。	会議において自発的な意見が少ないようなので、あらかじめ書面で意見を用意してもらうなどの工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見には、耳を傾け、働きやすい職場環境となるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が、年2回行われ、また、希望者は講演・研修などにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設交互見学研修に参加し、他施設見学に行ったり、受け入れしたりして、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族より状況を聞いているが、本人に理解し、納得していただけるように話していただき、事前に見学もしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族より、話をよく聞き不安なく入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、家族より状況をよく聞き、アセスメントを行い、ケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不足している部分を、そっと補う形の介護を心掛け、ごく当たりまえの日常をともに過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、常に共同生活をしているという気持ちを持って支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの面会ができるよう声掛けしている。	家族以外の知り合いや友人の訪問もある。コンビニなど買い物を通じて店員と顔なじみとなっている利用者もいる。墓参りや自宅の畑が気になるという利用者には家族との橋渡しをし、実現できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理のない形で、レクリエーションや憩いの場に誘い談話を取り持つことで、顔なじみの関係を築いていかれるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談を受けた時は、応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者との会話や行動などで把握に努めている。	プラン作成時にアセスメントも作成し直し、現状に基づいたケアに取り組むよう心掛けている。何気ない会話の中からの発語を大切に、利用者に分かりやすい言葉掛けをおこなうことにより、食べたいものなど身近な意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや入居前のサービス計画書で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに経過記録を残し、カンファレンスにおいて意見交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変化や状態に即した介護計画を、ご本人、ご家族を交えて作成している。	利用者担当の職員と計画作成担当でモニタリングし、その内容を職員全員でカンファレンスして計画作成に活かしている。また、各ユニットの計画作成担当者和管理者が月1回話し合い、事業所として計画作成に整合性をもたせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を、個々の経過記録に記録し、カンファレンス時、話し合い、ケアプラン、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活という枠にとらわれない支援を必要としている方もいる。場合によっては他種のサービスの紹介もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月々の行事の時、ボランティアの協力を招き、演芸などの催し物を披露していただき、楽しんでいる。定期的に通所介護に出かけている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況、家族の希望を主治医に伝え、適切な治療を受けている。場合によっては、本人・職員で受診することもある。	在宅時からのかかりつけ医の場合は家族にお願いしているが、事業所の協力医については職員が付き添っている。看護師の訪問が週2回あり、急変時における連携も整っている。医療記録は連絡ノートに記載し、職員間の情報の共有化に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、週2回来設し、健康管理を行っている。看護師の判断や考えをかかりつけ医師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに対応できるよう情報提供を取り合っている。入院中や退院に向けての支援等は、家族や病院相談員と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、医療連携体制について(看取りに関する指針)説明をし、同意していただいている。	契約時に、医療が求められる看取りまではおこなわない方針を家族に説明している。週2回看護師の診たてがあるため、急変となる前段階での対応が叶っている。万が一急変した場合のマニュアルなど書面整備もおこなわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や防災対策の話し合いを定例会議にて定期的に行っている。地域の協力体制については、地域推進会議にて、自治会の協力をお願いしている。	夜間想定なども含み、年2回の訓練に取り組んでいる。また、自治会長や民生委員を通じて地域の皆さんにも参加してもらえるよう、呼びかけをおこなっている。地域の防災訓練には参加していないため、今後は地域での訓練参加もめざしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけが乱れてしまわないように、定例会では必ず確認している。	開設から8年目となり職員と利用者との関係が長期となってきたため、馴れ合いになることを危惧している。「丁寧な言葉は丁寧な態度を表す」として、ゆとりをもって接することができるように指導していて、気分転換をねらいとして職員に他のユニットを手伝ってもらうという試みもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大切にし、傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが穏やかな気持ちで、その日を過ごせるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のコーディネートを利用者と一緒に考えたりしている。希望者は出張美容師に毛染めやパーマをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者は自主的に手伝ってくれている。食事の前の楽しい雰囲気も大切にしている。	近所のスーパーで一緒に食材を購入したり、調理の下ごしらえなどを利用者と一緒にこなしている。食材の皮むきや盛り付けなどできることを一緒にこなすことにより、利用者に生き生きとした表情がみられることもあるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を付け、一人ひとりに見合った量や加工で提供するようにしている。水分不足にならないよう、毎日汁物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできない方は、職員が声掛け、介助をし、清潔保持していただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレ声掛け誘導している。利用者からのしぐさからも察知するようにしている。	「できるだけ布パンツで(紙パンツにしない)」という方針をもってトイレ誘導に取り組んでいる。職員のきめ細かな対応により、トイレで排泄できなかった利用者ができるようになった例もある。夜間は安眠第一として、PTイレの導入などの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を促している。排便チェック表を記入し、主治医・看護師の指導の下に適切な内服薬の処方・排便介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助は、毎日行っており、希望者は毎日でも入浴することができる。	希望があれば毎日入浴できる体制がある。苦手な人は3日空くことがないよう、清潔保持に配慮している。浴槽が広いので、3人までは同時に浴室に入る事ができる。脱衣所は整理整頓が行き届き、清潔に保たれていて、職員が5Sに取り組んだ跡がみられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて休憩を取っていただいている。安眠できるよう、寝具や空調にも心配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については、薬管理表に記録し、内容を把握するようにしている。内服薬は手渡し、飲み込み確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事が継続していかれるよう、家族に協力していただくこともある。一人ひとりが自分なりの気分転換を図れていると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物に出かけられるようにしている。家族と外食やドライブを楽しまれている利用者もある。	近くのスーパーやドラッグストアに買回り品を購入がてら出かけたり、お弁当を作ってお花見に行くこともある。日常的には、地域の人たちが楽しむスポーツを眺めたり、ベンチで休んだりなど、近くの公民館を休憩処として散策している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される利用者には家族の了承を得た上で金銭の所持や買い物をしていただいている。、		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の手段を希望する利用者はいない。かかってきた電話を取り次ぐと喜ばれる利用者はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華美な装飾はさけるようにしている。利用者の手作り作品を飾って、季節を味わっていたけようにしている。	事務所の窓口や共用空間には植物が飾られ、広く爽やかな印象を受ける。厚手と薄手のカーテンを併用することにより、採光を調整している。また、敢えて華美にしないよう壁画の数を抑えているため、落ち着いた雰囲気を保っている。時間を決めてはいないが、換気は心掛けていて随時おこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室生活が可能な利用者が多いので、思いおもいに居室とリビングを行き来している。利用者同士で訪問しあったりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みのある物を居室に置かれることを勧めている。	居室にはベット、エアコン、洗面台、クローゼットを備えている。ギターや書籍などの馴染みの品を持ち込んでいる部屋もあり、居心地よく過ごせる様子が覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも取り付けられている。一人ひとりがなるべく自力で、かつ、安全に生活できる環境になっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく生活が出来るような対応を心掛けている。 具体的な理念が玄関に掲示されている。	事務所にも掲げ、職員の振る舞いからも浸透していることが見えるが、強いて読み上げなどを行ってはいない。定着率も高いため、振り返りの機会も逸して、管理者は現状には納得しつつも、マンネリへの危惧ももっている。	年1、2回は「自らのどのような言動が理念の実現に通じているのか」を職員間で話し合うことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との連絡を密にして、地元公民館で行われている行事などに参加し、地域の中学生の体験学習の受け入れも行っている。	ボランティアの訪問が日常的にあるが、トピックスとしては、2校の中学校から6日間で60名余の訪問があった。一人ひとりの学生から便りも届き、利用者のみならず職員の励みにもなっている。また、日頃の散歩には公民館やスーパーなど地域資源を大いに活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して家族や地域の人々に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の状況、施設での取り組みなどを報告し、話し合いを行い、貴重な意見を得ている。議事録として、その内容を残し、課題を職員すべてが共有できるようになっている。	運営推進会議には、自治会長、民生委員、家族、地域包括職員、市職員らの参加がある。災害について話し合った際には地元ならではの情報を得ることができるなど、毎回の会議が運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、また、介護相談員の受け入れを行っている。	運営推進会議に毎回参加してもらっていて、事業所の運営に協力してもらっている。会議では、家族の質問にも速やかに回答してもらえるなど、建設的な運営の一翼を担ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が研修を受け、禁止の対象となる行為、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 身体拘束排除マニュアル、身体拘束ゼロへの手引きをいつでも見られるように、目に付くところに配置している	毎月の会議で管理者から注意事項として必ず挙げ、意識を克己している。ほかにも内部研修が年2回あり、全職員が必ず年1回は受けるようにして、標準化をすすめている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止には、強く関心を持ち、講義を受け理解している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	そのような制度があるのは、知っているが、現在は、利用する対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見があった場合には、厳粛に受け止め、今後の運営に役立てている。	今年度からの取り組みとして家族会(兼運営推進会議)に参加してもらえるように、それぞれの家族あてに手紙を出した。その結果もあってか、昨年度まで参加がなかった家族会に今年度は3～5名の参加があった。また、家族からの意見があった場合はユニットリーダーを通じて職員に届くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、カンファレンスを行っている。また、毎月第2月曜日には、職員の定例会議を行っている。	行事担当を設けることにより、職員は責任感のある自発的な対応ができるようになってきている。職員間にフィードバックの気概の芽も育ちつつあり、各ユニット間でフォローし合おうとする声も挙がるなど、少しずつではあるが職員の視野に広がりがみられる。	会議において自発的な意見が少ないようなので、あらかじめ書面で意見を用意してもらうなどの工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見には、耳を傾け、働きやすい職場環境となるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が、年2回行われ、また、希望者は講演・研修などにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設交互見学研修に参加し、他施設見学に行ったり、受け入れしたりして、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族より状況を聞いているが、本人に理解し、納得していただけるように話していただき、事前に見学もしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族より、話をよく聞き不安なく入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、家族より状況をよく聞き、ケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中、共に生活しているという気持ちで接しており、会話の中、昔の習わしなどを取り入れたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、常に共同生活をしているという気持ちを持って支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの面会ができるよう声掛けしている。	家族以外の知り合いや友人の訪問もある。コンビニなど買い物を通じて店員と顔なじみとなっている利用者もいる。墓参りや自宅の畑が気になるという利用者には家族との橋渡しをし、実現できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に強要しない程度に、レクリエーションや物作りを協力して作り上げるようにしている。 また、天気の良い日にはユニット合同でベンチで会話を楽しんでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談を受けた時は、応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者との会話や行動などで把握に努めている。	プラン作成時にアセスメントも作成し直し、現状に基づいたケアに取り組むよう心掛けている。何気ない会話の中からの発語を大切に、利用者に分かりやすい言葉掛けをおこなうことにより、食べたいものなど身近な意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式の暮らしの情報を記入していただき、家族に聞いたり、本人との会話の中から、把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス時、職員同士の意見交換、情報交換をし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネ、介護職員、本人で話し合い、介護サービス計画書を作成している。	利用者担当の職員と計画作成担当でモニタリングし、その内容を職員全員でカンファレンスして計画作成に活かしている。また、各ユニットの計画作成担当者和管理者が月1回話し合い、事業所として計画作成に整合性をもたせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を、個々の経過記録に記録し、カンファレンス時、話し合い、ケアプラン、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や、家族の要望に応じ、状態にあった施設を相談に応じ紹介している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事の時、ボランティアの協力を招き、演芸などの催し物を披露していただき、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況、家族の希望を主治医に伝え、適切な治療を受けている。	在宅時からのかかりつけ医の場合は家族にお願いしているが、事業所の協力医については職員が付き添っている。看護師の訪問が週2回あり、急変時における連携も整っている。医療記録は連絡ノートに記載し、職員間の情報の共有化に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、週2回来設し、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに対応できるよう情報提供を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、医療連携体制について(看取りに関する指針)説明を行っている。	契約時に、医療が求められる看取りまではおこなわない方針を家族に説明している。週2回看護師の診たてがあるため、急変となる前段階での対応が叶っている。万が一急変した場合のマニュアルなど書面整備もおこなわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や防災対策の話し合いを定例会議にて定期的に行っている。地域の協力体制については、地域推進会議にて、自治会の協力をお願いしている。	夜間想定なども含み、年2回の訓練に取り組んでいる。また、自治会長や民生委員を通じて地域の皆さんにも参加してもらえるよう、呼びかけをおこなっている。地域の防災訓練には参加していないため、今後は地域での訓練参加もめざしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけが乱れてしまわないように、定例会では必ず確認している。	開設から8年目となり職員と利用者との関係が長期となってきたため、馴れ合いになることを危惧している。「丁寧な言葉は丁寧な態度を表す」として、ゆとりをもって接することができるように指導していて、気分転換をねらいとして職員に他のユニットを手伝ってもらうという試みもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に会話の中で、本人の思いや希望を受け止め、自分の意思を伝達できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりの希望に沿った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問美容師にきていただいている。衣類の選択も自由にいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合った手伝いを一緒に行っている。食事中は、メニューの話をしたりして楽しいものになるようにしている。	近所のスーパーで一緒に食材を購入したり、調理の下ごしらえなどを利用者と一緒にこなしている。食材の皮むきや盛り付けなどできることを一緒におこなうことにより、利用者に生き生きとした表情がみられることもあるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をしている。水分不足にならないように、毎食、汁物を付け、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室内の洗面所にて口腔ケアをしている。自分で出来ない利用者は、毎食後、声掛けをし、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、チェック表を記入して、状態を把握し、主治医・看護師と連携して、薬の調整を行っている。	「できるだけ布パンツで(紙パンツにしない)」という方針をもってトイレ誘導に取り組んでいる。職員のきめ細かな対応により、トイレで排泄できなかった利用者ができるようになった例もある。夜間は安眠第一として、PTイレの導入などの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、カンファレンスを行っている。また、毎月第2月曜日には、職員の定例会議を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴でき、希望者は、毎日入浴されている。	希望があれば毎日入浴できる体制がある。苦手な人は3日空くことがないよう、清潔保持に配慮している。浴槽が広いので、3人までは同時に浴室に入る事ができる。脱衣所は整理整頓が行き届き、清潔に保たれていて、職員が5Sに取り組んだ跡がみられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの思いを尊重し、休みたい時は、居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬管理表に用量、目的など、記入して把握し、服薬時には、手渡し、飲み込み確認をし、症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを活かし、物作りをしたり、楽しみを見つけ、話し合いが持てるよう支援している。また、毎月の行事を行い、楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、外気浴をしている。 また、家族の状況や本人の状態により、外出できるように支援している。	近くのスーパーやドラッグストアに買回り品を購入がてら出かけたり、お弁当を作ってお花見に行くこともある。日常的には、地域の人たちが楽しむスポーツを眺めたり、ベンチで休んだりなど、近くの公民館を休憩処として散策している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自分で管理できる利用者はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話ができる利用者が少ないが、出来る方には行っていたいいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に毎月の行事などの思い出写真を飾ったり、リビングの壁には、利用者さんの作った作品を飾り、季節感を取り入れている。	事務所の窓口や共用空間には植物が飾られ、広く爽やかな印象を受ける。厚手と薄手のカーテンを併用することにより、採光を調整している。また、敢えて華美にしないよう壁画の数を抑えているため、落ち着いた雰囲気を保っている。時間を決めてはいないが、換気は心掛けていて随時おこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングに境を作らず、共同空間として確保し、共同作業をしたり、一人になりたい方は、居室で休まれ、思いおもいに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべく、使い慣れた物を使用していただくように説明している。	居室にはベット、エアコン、洗面台、クローゼットを備えている。ギターや書籍などの馴染みの品を持ち込んでいる部屋もあり、居心地よく過ごせる様子が覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっており、すべてのところに手摺りが付けてある。必要以上に手をかけないで、できる事はしていただき、自立できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく穏やかな生活が出来るような関係作りに重点をおいた具体的な理念が、玄関に掲示されている。	事務所にも掲げ、職員の振る舞いからも浸透していることが見えるが、強いて読み上げなどを行ってはいない。定着率も高いため、振り返りの機会も逸して、管理者は現状には納得しつつも、マンネリへの危惧ももっている。	年1、2回は「自らのどのような言動が理念の実現に通じているのか」を職員間で話し合うことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会との連絡を密にして、協力が得られるような関係となっている。 また、地元公民館で行われている行事などに参加し、中学生の体験学習の受け入れを行っている。	ボランティアの訪問が日常的にあるが、トピックスとしては、2校の中学校から6日間で60名余の訪問があった。一人ひとりの学生から便りも届き、利用者のみならず職員の励みにもなっている。また、日頃の散歩には公民館やスーパーなど地域資源を大いに活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して家族や地域の人々に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組んでいる状況をお話したり、出席者からの疑問点など貴重な意見を得ている。	運営推進会議には、自治会長、民生委員、家族、地域包括職員、市職員らの参加がある。災害について話し合った際には地元ならではの情報を得ることができるなど、毎回の会議が運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、また、介護相談員の受け入れを行っている。	運営推進会議に毎回参加してもらっていて、事業所の運営に協力してもらっている。会議では、家族の質問にも速やかに回答してもらえるなど、建設的な運営の一翼を担ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が研修を受け、禁止の対象となる行為、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 身体拘束排除マニュアル、身体拘束ゼロへの手引きをいつでも見られるように、目に付くところに配置している	毎月の会議で管理者から注意事項として必ず挙げ、意識を克己している。ほかにも内部研修が年2回あり、全職員が必ず年1回は受けるようにして、標準化をすすめている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止には、強く関心を持ち、講義を受け理解している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	そのような制度があるのは、知っているが、現在は、利用する対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見があった場合には、厳粛に受け止め、今後の運営に役立てている。	今年度からの取り組みとして家族会(兼運営推進会議)に参加してもらえるように、それぞれの家族あてに手紙を出した。その結果もあってか、昨年度まで参加がなかった家族会に今年度は3～5名の参加があった。また、家族からの意見があった場合はユニットリーダーを通じて職員に届くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、カンファレンスを行っている。また、毎月第2月曜日には、職員の定例会議を行っている。	行事担当を設けることにより、職員は責任感のある自発的な対応ができるようになってきている。職員間にフィードバックの気概の芽も育ちつつあり、各ユニット間でフォローし合おうとする声も挙がるなど、少しずつではあるが職員の視野に広がりがみられる。	会議において自発的な意見が少ないようなので、あらかじめ書面で意見を用意してもらうなどの工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見には、耳を傾け、働きやすい職場環境となるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が、年2回行われ、また、希望者は講演・研修などにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設交互見学研修に参加し、他施設見学に行ったり、受け入れしたりして、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族より状況を聞いているが、本人に理解し、納得していただけるように話していただき、事前に見学もしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族より、話をよく聞き不安なく入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、家族より状況をよく聞き、ケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中、共に生活しているという気持ちで接しており、会話の中、昔の習わしなどを取り入れたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、常に共同生活をしているという気持ちを持って支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの面会ができるよう声掛けしている。	家族以外の知り合いや友人の訪問もある。コンビニなど買い物を通じて店員と顔なじみとなっている利用者もいる。墓参りや自宅の畑が気になるという利用者には家族との橋渡しをし、実現できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に強要しない程度に、レクリエーションや物作りを協力して作り上げるようにしている。また、天気の良い日にはユニット合同でベンチで会話を楽しんでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談を受けた時は、応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者との会話や行動などで把握に努めている。	プラン作成時にアセスメントも作成し直し、現状に基づいたケアに取り組むよう心掛けている。何気ない会話の中からの発語を大切に、利用者に分かりやすい言葉掛けをおこなうことにより、食べたいものなど身近な意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式の暮らしの情報を記入していただき、家族に聞いたり、本人との会話の中から、把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス時、職員同士の意見交換、情報交換をし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネ、介護職員、本人で話し合い、介護サービス計画書を作成している。	利用者担当の職員と計画作成担当でモニタリングし、その内容を職員全員でカンファレンスして計画作成に活かしている。また、各ユニットの計画作成担当者和管理者が月1回話し合い、事業所として計画作成に整合性をもたせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を、個々の経過記録に記録し、カンファレンス時、話し合い、ケアプラン、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や、家族の要望に応じ、状態にあった施設を相談に応じ紹介している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事等に、ボランティアの協力を招き、演芸などの催し物を披露していただき、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況、家族の希望を主治医に伝え、適切な治療を受けている。	在宅時からのかかりつけ医の場合は家族にお願いしているが、事業所の協力医については職員が付き添っている。看護師の訪問が週2回あり、急変時における連携も整っている。医療記録は連絡ノートに記載し、職員間の情報の共有化に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、週2回来設し、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時あるいは、入院中も、スムーズに対応できるよう情報提供を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、医療連携体制について(看取りに関する指針)説明を行っている。医療が求められる看取りの体制がないので、契約時に家族には、説明し理解を得ている。	契約時に、医療が求められる看取りまではおこなわない方針を家族に説明している。週2回看護師の診たてがあるため、急変となる前段階での対応が叶っている。万が一急変した場合のマニュアルなど書面整備もおこなわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを把握し、それに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や防災対策の話し合いを定例会議にて定期的に行っている。地域の協力体制については、地域推進会議にて、自治会の協力をお願いしている。	夜間想定なども含み、年2回の訓練に取り組んでいる。また、自治会長や民生委員を通じて地域の皆さんにも参加してもらえるよう、呼びかけをおこなっている。地域の防災訓練には参加していないため、今後は地域での訓練参加もめざしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、言葉使いや、対応に注意している。	開設から8年目となり職員と利用者との関係が長期となってきたため、馴れ合いになることを危惧している。「丁寧な言葉は丁寧な態度を表す」として、ゆとりをもって接することができるように指導していて、気分転換をねらいとして職員に他のユニットを手伝ってもらおうという試みもしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に会話、の中で本人の思いや、希望を受け止め自分の思いを伝達できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりの希望を取り入れるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回訪問美容師に來設していただいている。 出来る限り、衣類は自分で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施行調査を行い、利用者の意向に合った食事を提供できるように心掛けている。 また、お手伝いの声掛けも行っている。	近所のスーパーと一緒に食材を購入したり、調理の下ごしらえなどを利用者と一緒にこなしている。食材の皮むきや盛り付けなどできることを一緒にこなうことにより、利用者生き生きとした表情がみられることもあるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録している。 お茶の時間や毎食汁物を付けて、水分不足に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合った口腔ケアをしていただき、声掛け、見守りをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、チェック表に記入、誘導をしている。	「できるだけ布パンツで(紙パンツにしない)」という方針をもってトイレ誘導に取り組んでいる。職員のきめ細かな対応により、トイレで排泄できなかった利用者ができるようになった例もある。夜間は安眠第一として、PTイレの導入などの工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師と連携して薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴でき、希望者は、毎日入浴されている。	希望があれば毎日入浴できる体制がある。苦手な人は3日空くことがないよう、清潔保持に配慮している。浴槽が広いので、3人までは同時に浴室に入る事ができる。脱衣所は整理整頓が行き届き、清潔に保たれていて、職員が5Sに取り組んだ跡がみられた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの思いを尊重し、休みたい時は、居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬管理表に用量、目的など、記入して把握し、服薬時には、手渡し、飲み込み確認をし、症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできる事で、楽しみを見つけ実行できるよう、支援している。 毎月、行事を行い楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、外気浴をしている。 また、家族の状況や本人の状態により、外出できるように支援している。	近くのスーパーやドラッグストアに買回り品を購入がてら出かけたり、お弁当を作ってお花見に行くこともある。日常的には、地域の人たちが楽しむスポーツを眺めたり、ベンチで休んだりなど、近くの公民館を休憩処として散策している。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者は、影響のおよばない程度の所持金を持ち、買い物をする時は、自分で精算することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話ができる利用者が少ないが、出来る方には行っていたいっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事などの思い出の写真を飾ったり、利用者の作った貼り絵を飾っている。	事務所の窓口や共用空間には植物が飾られ、広く爽やかな印象を受ける。厚手と薄手のカーテンを併用することにより、採光を調整している。また、敢えて華美にしないよう壁画の数を抑えているため、落ち着いた雰囲気を保っている。時間を決めてはいないが、換気は心掛けていて随時おこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングに境を作らず、共同空間として確保し、共同作業をしたり、一人になりたい方は、居室で休まれ、思いおもいに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべく、使い慣れた物を使用していただくように説明している。	居室にはベット、エアコン、洗面台、クローゼットを備えている。ギターや書籍などの馴染みの品を持ち込んでいる部屋もあり、居心地よく過ごせる様子が覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーになっており、すべてのところに手摺りが付けてある。必要以上に手をかけないで、できる事はしていただき、自立できるようにしている。		